

ネットワークボード

10月22日のぱれっと合同勉強会では、自立をテーマに様々な議論が展開されましたが、その中で共通して語られたのは、「情報不足」でした。情報化社会と呼ばれるようになって久しく、パソコンやスマートフォンなど、道具の発達も目覚ましい中でも、障がいのある人の自立を考えた時には、先行事例を含めて、なかなか欲しい情報をピンポイントで掴めるチャンスが少ないようです。今回はそんな情報交換をされている、「障がいのある人の自立生活について考える会」をご紹介します。彼らの自立生活に関わりのある人、これから関わりたいと思っている人、ぜひ一度参加してみてください。(編集部)

知的障害のある人の自立生活について考える

知的障害のある人の自立生活について考える会

知的障害のある人の自立生活に関わりのある人、これから関わっていきたくて思っている人たちで、情報交換や意見交換など交流をしていくために、考える会では Facebook グループ(非公開・登録者限定グループ)の運営をしています。

<https://onl.sc/jjYpbUp>
(短縮 URL)

上記アドレスまたは右のQRコードから申込フォームにアクセスして手続きをお願いします。



編集後記



今年の春、特別支援学校を卒業した次女が、地元の就労継続支援B型事業所に通い始めて半年が経ちました。最初の頃は、いろいろと覚えなければいけないこともあって緊張していたようですが、ここ最近はどうも具合に肩の力が抜けてきたように感じています。と同時に少しずつ社会人としての自覚も出てきたようで、先日「がんばったから給料が上がった」と誇らしげに報告してくれました。

一方、親である私の心境にも微妙に変化が生まれたようです。今回の特集にもあった「自立とは」というワードが一層現実味を帯びて聞こえるようになりました。でもここで言う「自立」の正体とは、実は親の『子離れ』。子どもをいつの間にか「ひとりの対等な社会人」として見るようになってきたことに気がきます。まだまだ経験は浅いですが、仕事から帰るとお互いに「お疲れ様」と声をかけあい、「今度仕事でね・・・」と、明らかに学生の頃とは会話が違って来ていると感じています。「いつでも離れる準備と覚悟はしている。でも、今は自ら家族と助け合いながら暮らすという選択をしている」。そんな状態が一番良いのかも知りません。そろそろ私も子育てから卒業か・・・おっとまだ三女がいましたわ(笑)。(みなみやま)